

中公通信 1月号

坂田館長よりご挨拶

あけましておめでとうございます。2023年（令和5年）がスタートしました。始まって約2週間が過ぎましたが、今年の1月は比較的穏やかな天候に恵まれ、落ち着いた年の幕開けとなりました。昨年は世界情勢を見ると、ロシアのウクライナ侵攻をはじめとする紛争が勃発し、悲惨な状況をニュース等で見るにつけ、毎日を平和に過ごすことができている日本での生活に感謝せざるを得ません。

コロナ禍も今年で4年目に入ります。流行の第8波はインフルエンザの流行期とも重なり、予断を許さない状況になっています。依然として感染力は強く、重症化は少ないにしても1日の死亡者数も記録を更新しており油断できない状況です。私たちのすぐそばまでコロナが来ているという感じを感じとれます。公民館での活動も通常のみですが、今後も感染予防には十分配慮して進めていきたいところです。

公民館での仕事は、毎日の一つ一つの業務を粛々とこなして進めていくことが多いですが、年の初めは新しい年がよりよいものとなるように祈りながら、気持ちを新たにする機会でもあります。それぞれ自分の仕事の目標達成や自分の家族の安泰等を祈願する節目としてとらえていきたいものです。竹の節目は次の成長を促す要となる部分でもあり、年の初めという節目も目標を立て、その年の成長を促すものであります。

職員に今年の抱負を漢字一文字で表すとどうなるか書いてもらいました。その漢字一文字一文字にそれぞれ職員の思いがこもっていると思います。

さて、皆さんは今年をどんな1年にしていきたいでしょうか？



A 小春日やチラムネ求め街に出る

B 勝家も花をめてたか九十九橋

C サンタ服着て恐竜の福井駅

文学講座（俳句編）

十二月十四日に福井学文学講座（俳句編）の最終回が行われました。今年度は全七回、社会教育指導員の渡辺先生に講師を務めていただきました。事前に考えてきた句を四つのグループに分かれて発表（グループ句会）し、その中から選ばれた句を全体で発表します。最終回のテーマは「福井」。福井にまつわる素敵な句がたくさん披露されました。その中から三句をご紹介します。（右記参照）

Aの句は福井を舞台にした小説「チラムネ（千歳くんはラムネ瓶のなか）」を取り上げた句です。季語である「小春日」と「チラムネ」の軽い感じが合っていて、ウキウキ

する気持ちが伝わってきます。俳句の「花」とは、桜を表すそうです。Bの句は戦国時代と現代が足羽川の風景で繋がっていて、ロマンあふれる句ですね。

Cの句には福井駅西口で存在感を放つ恐竜たちが登場しています。福井の顔ともいえる恐竜たちが、サンタの衣装を着てクリスマスモードを盛り上げていました。

講座生の皆さんは俳句初心者の方が多い中、とても熱心に取り組まれています。今後も活動を続けたいという声をいただき、現在学習グループ化へ向けて動き出しています。また「中公如月会」として福井新聞に俳句が掲載される予定です。今後の活動にもぜひご注目ください。

職員研修（市政出前講座）
「水素エネルギーって
なんだろう？」

十二月二十二日に中央公民館職員研修が行われました。市政出前講座を利用し、「水素エネルギーって何だろう？」次世代のクリーンエネルギー『水素』について学ぼうというテーマで福井市環境政策課の方にお話しいただきました。地球温暖化の現状と取り組み、特に水素発電について説明があり、公用車として利用されている燃料電池自動車「MIRARA」をご紹介いただきました。

講義の後には実際に「MIRARA」を見学しました。環境に優しいだけでなく、災害時には電気供給もできるそうです。



2月の講座予定

- 22日(水)19:00~20:30 青年講座 大人のたしなみ
- 25日(土)14:00~16:00 青年講座 みんなでワクワク
- 26日(日)14:00~15:30 福いいネ！ほっとコンサート
- 28日(水)19:00~20:30 青年講座 みんなでワクワク

福いいネ！ほっとコンサート

二月二十六日開催

「福いいネ！ほっとコンサート」が開催されます。昨年度も会場を大いに盛り上げた白井淳夫Swingin' Band & 高浜和英さん他、第二部には十団体が出演します。ぜひご来場ください。

日時…二月二十六日(日)一時～四時半

料金…五百円

定員…五百人

場所…アオッサ八階 県民ホール
申込…一月十一日(水)九時から

中央公民館と河合公民館で販売中

